

インターバンクの声（2016年3月18日）

何とか111円台で持ち堪えていたドル円だったが、ニューヨーク勢がそろそろ参入してくる時間帯になって110円台に突入してしまった。しかも2月に付けた110円台とは違ってかなり深い水準まで売り込まれた。今回も滞空時間が短かったことで一気に110円割れは避けられたが、ドルベア派の人たちは、いよいよ105円-110円レンジへの移行が本格的に始まったと思っているに違いない。やはり12月時点では年内4回の利上げ見通しが、今回の連邦準備制度理事会（FRB）で年内2回へ修正されたことが大きく作用している。今年1月に日銀がマイナス金利の導入を決めた直後に121円台を付けた2月1日から、僅か1ヶ月半程しか経っていない間に11円も円高が進んだ。原油価格が回復傾向になり、世界的に株価も反発してくれば円高への圧力もなくなると思われていたが、どうもドルは円ばかりでなくユーロや豪ドルに対しても売り相場になってしまっているようだ。日銀による為替介入の話題も飛び交いやすくなってきたが、「原油価格の持ち直しと株高＝ドル買い」の意識が戻らないと円買い・ドル売りが強まってしまうそうだ。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複製もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。